

第十六回

名曲能の会

能

自然居士

大村定



舞囃子
大銀杏

狂言
栗焼

平成二十六年十二月十三日(土) 午後一時開演

(正午開場)

喜多六平太記念能楽堂

東京都品川区上大崎四一六十九
TEL・03(3491)8813

入場券 (全席指定)

S席 (正面席)	10,000円
A席 (正面席)	9,000円
B席 (脇・中正面席)	8,000円
C席 (脇正・棧敷席)	7,000円
D席 (二階席)	5,000円
E席 (二階席)	3,000円

〈お申し込み・お問い合わせ〉

名曲能の会-048(482)0068

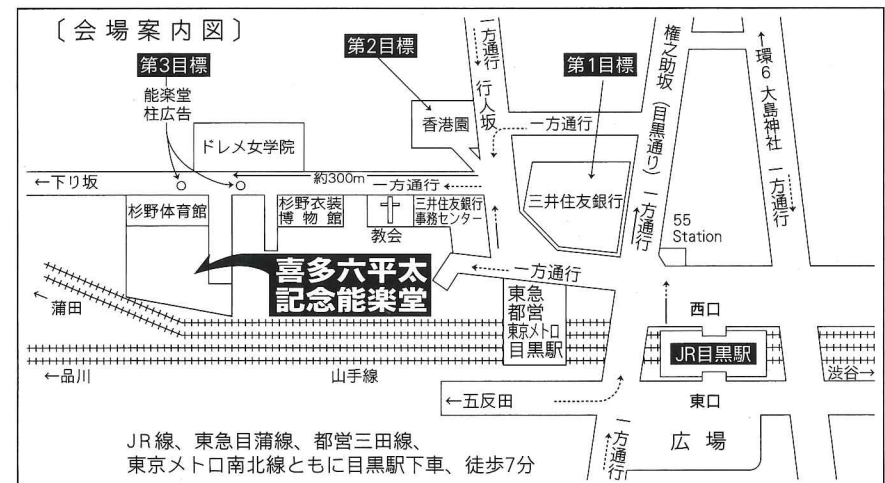
喜多能楽堂-03(3491)8813

主催

名曲能の会 大村定

埼玉県新座市片山2-11-20

TEL・FAX 048(482)0068



舞離子 番組

大銀杏 大村 定

國川 純 觀世元伯
會和正博 藤田貴寛

解説 金子直樹

地謡 佐藤寛泰 金子敬一郎
友枝真也 中村邦生
塩津圭介 狩野了生

栗焼 シテ野村万作 アド深田博治

能 休息二十分

自然居士 シテ大村 定

大鼓 國川 純 笛 槻宅 聡
小鼓 曾和正博
ワキツレ 高橋正光
間 奥津健太郎

後見 塩津哲生 佐々木多門 出雲康雅
大島輝久 地謡 内田成信 香川靖嗣
友枝雄人 友枝昭世
栗谷浩之 栗谷能夫

終了予定 午後三時四十五分

□本日の上演曲 能「自然居士」

京都東山で自然居士が雲居寺造営のための説法を行なっていると、一人の少年が亡くなった両親の追善供養の願いの文を捧げ、施物として小袖一枚を供える。自然居士が願文を読みあげると皆が涙する。そこへ人買いがやってきて、少年を引き連れていく。少年が供えた小袖は、我が身を売った代金で作ったものだった。

自然居士は、説法の満願を捨てて少年を救おうと、大津の浜まで人買いを追って、裾まで水につかりながら舟を引き止め、小袖を返して少年を連れ帰ろうとする。人買いは命を取るぞと脅すが、自然居士はびくともしない。手をやいた人買いは、自然居士にさまざまな芸をさせたうえで少年を返すことにする。自然居士は少年を救うために芸を尽し、少年を取り戻すと、喜んで帰ってゆく。

観阿弥作といわれる劇能の傑作。主人公の自然居士という人物は在家の宗教者で、純粹にして強烈な行動力を持ち、しかも沈着冷静、目的のために貫き通す意志の持ち主。七日間の説法の満願より、一人の少年を救うことが大切だと語る自然居士は、観念より実践を、形式より実質を重んじた、当時のヒーローである。人買いの舟での言葉のやりとりには、観阿弥らしいスリリングな会話と虚々実々のかけひきのスピーディーさ。美文体の多い能の詞の中で、俗語を駆使して観客の手に汗を握らせるような会話が進展していく。続く芸尽くしでは〈中ノ舞〉〈舟

の曲舞)〈薨の舞)〈羯鼓ノ舞)を見せるが、これらの舞はドラマと緊密に関係しており、単に遊芸を見せるに留まらない。舞台転換もみごとで、説法の場では、舞台空間を越えて観客が聴衆としてドラマに組みこまれてしまふ。一転して橋掛かりと舞台の間に琵琶湖の岸と湖上の空間が広がる。セットを用いぬ能ならではの空間処理の巧みさである。

舞離子「大銀杏」 原作・構成 大江 隆子
鎌倉鶴岡八幡宮の御神木が強風により倒れ、再生を祈願して作られた新曲。 節付・制作 大村 定

□出演者の紹介 大村 定 (おおむら・さだむ)
シテ方喜多流。一九四九年大村武の三男として広島に生まれる。十五世宗家喜多実に師事。喜多流職分會同人。日本能樂會會員。

野村 万作 (のむら・まんさく)
狂言方泉流。一九三一年六世野村滿藏の次男として東京に生まれる。初世野村萬齋および父に師事。日本能樂會會員。人間国宝。

金子 直樹 (かねこ・なおき)
能樂評論家。一九五四年東京生まれ。学生時代から能・狂言の普及・評論活動を開始。解説、評論、講演などを中心に活躍中。近著に『能鑑賞二百一番』『狂言鑑賞二百一番』(淡交社)。